

# 山村の魅力 走って体感

妙高である  
マラソン大会 専門学校生が企画

妙高市の国際自然環境アウトドア専門学校生らが6日、新井南部地域など同市の中山間地域18集落を舞台にしたマラソン大会「MYOKO ULTRA RUN RACE18」を初めて開催する。生徒らは、登った高さを合計する累積標高が約2千メートルなるハードなコースをPRして全国のランナーに出場を呼び掛けた。山村の魅力を出場者を感じてもらい、今後の地域活性化につなげる狙いだ。



実行委員長で、アウトドア専門学校専任講師の田辺慎一さん(44)によると、山などの未舗装道を走るトレイルランニングを除き、舗装された道走るマラソン大会では「累積標高が国内で最も高いのではないかとみる。全国のランナーに参加を呼び掛けたところ、55キロコースを中心に予想を上回る約1200人の申し込みがあった。田辺さんは「集落の中を通りながら起伏や妙高

山麓の景色を楽しめる。このコースは地域の大事な資源だ」と話す。

一方で地域住民や地元企業にも協力を呼び掛け、コース誘導や給水所の運営に70〜80人のボランティアが参加し、約20社が協賛してくれることになった。

アウトドアライフ学科3年の諸岡龍也さん(35)は「地元の皆さんとわれわれ専門学校生の力が合わされた。ぜひ成功させたい」と話した。

大会は6日午前6時、妙高市原通のアウトドア専門学校前を順次スタートする。

## 小学校の在り方 意見一本化せず

上越・板倉地域協 4校区に提示へ

学校統合など区内4小学校の今後の在り方を検討してきた上越市の板倉区地域協議会は4日までに、会として意見の一本化はせず、4校区の意見をまとめて市に報告する方針を決めた。

各校区の意見は学校の統合と存続を求めるものに分かれており、一本化は時期尚早と判断した。地域協は報告書案を年内に各校区に示し、市には来年3月末までに提出する。

レースは、アウトドアの専門家から見ると地域一帯が起伏に富んだ面白いコースであることから、「マラソン大会で中山間地の楽しさに触れてもらい、地域を盛り上げよう」と企画。4月に生徒と教員の計約20人による実行委員会を組織して準備を進めてきた。

55キロや30キロなど5種類の距離を設定。18集落を駆け抜ける55キロコースは登りが多く累積標高は約2千メートル。

マラソン大会の準備をする国際自然環境アウトドア専門学校生ら11日、妙高市